

「アサガオの花の分解保存(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

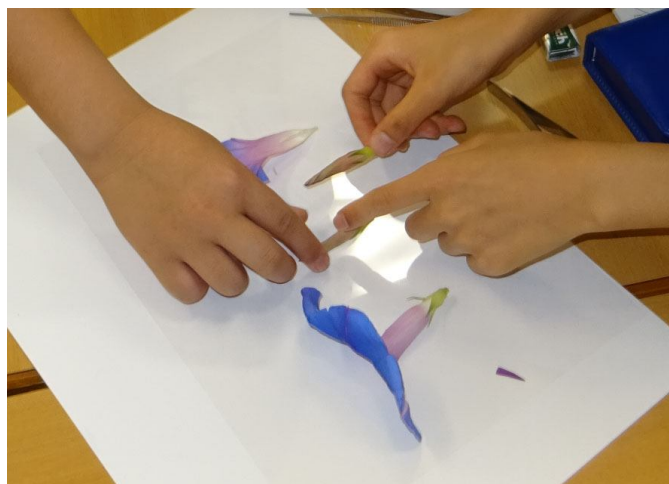
アサガオの花の構造を観察するには、通常、花を分解してスケッチしたり、子ども自身がデジカメ撮影する。スケッチは、正確さに欠けることが多く、時間もかかり、スケッチ中に花卉がどんどん萎えてしまうこともある。またどうしても、人数分の花が必要になる。デジカメの場合は、その後印刷が必要で、その場で全員に配布するのは難しい。



こんな場合「コピー機」は、さまざまな教材を「固定」するのに便利だ。たとえば写真は「ヒメカツオブシムシ」教室の床板の隙間にいる、耐久性の強い甲虫だ。大きさは5mmほどだが、400%で拡大カラーコピーすると、実に立体感のある「標本」になる。



まず、アサガオの花を普通に分解する。その際、めしべ、おしべができるだけ片側に残るように慎重に花弁を切っていく。



そのままコピー機のガラスの上にも置いて良いのだが、置くのに時間がかかり、コピー機のガラスも汚れる。そこで、半分に切断したアサガオの花を、おわんを伏せるように、まずは透明シート(OHPシート)に載せる。下に画用紙を1枚敷いておくと良い。



おしべやめしべなど、花を構成する重要な器官は、直接分解して、同じように透明シート上に並べる。特にめしべは、柱頭-花柱-子房(胚珠)が1本につながった様子が見えるように分解するのが良いのだが、これが子どもにはなかなかむずかしい。



アサガオの花は分解すると萎えるのも早いので、作業には素早さが要求される。20分もあれば完成する。